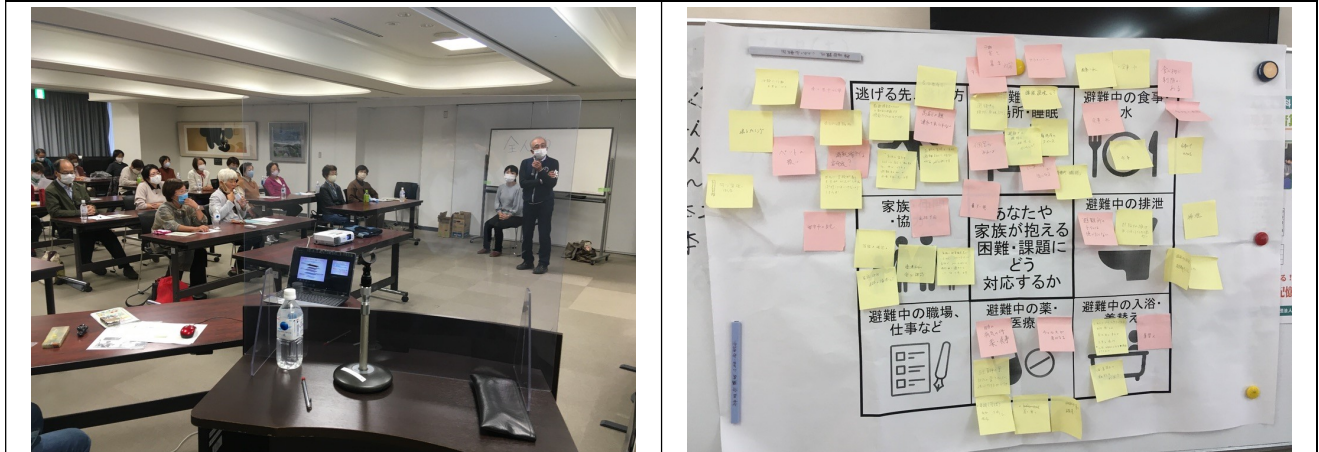


## 2020 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	生きる力を育む研究会
活動テーマ	『要支援者理解を促すチャート図』と『障害者の避難物資リスト作りWS』等の普及活動



本活動の目的は、「要支援者等の困難や困りごとへの理解を促すために開発したチャート図」や、「障害者（高齢者も含む）の避難物資リスト作り」等のワークショップの普及を図り、コミュニティの中での高齢者・障がい者等への理解促進と、対応力の増進を図ることであった。

本年度は、兵庫県小野市の二つの地区や伊丹市において、地域の住民リーダー層を対象に、ワークショップや研修会を実施したが、コロナ禍における緊急事態宣言や活動自粛要請の影響を受けたことにより、計画していたワークショップ、研修会の過半が中止となってしまった。しかしながらそのような中で、当該要支援者の避難行動支援・避難生活支援を考える「災害時避難行動要支援者支援計画・個別計画」づくりに向けた、“家庭訪問による小さなワークショップ”を3件実施できたことは大きな成果であったと考えている。

中でも、乳癌を患い日々の医療処置を必要とする在宅高齢者（要介護3）宅への訪問調査は、我々に大きな課題や学びをもたらす所となった。その要支援者本人は「一般の避難所にも、福祉避難所にも、自分を受け入れ医療対応してくれる人材の存在など期待できるはずもないことから、万一大災害が発生しても、自分を避難させず自宅で死なせて欲しい」と明確な意思を有していたが、今の行政にも、地域コミュニティにも、当人の困りごとに対応できる能力や余力が無いことを思い知らされることとなった。そして、今後の私たちの課題が、「個別計画検討の支援」に残っていることを強く認識させられるに至った。

現在の多くの「災害時支援」が、“とにかく肉体さえ救えばいい”というレベルのものになりがちで、“死ぬより辛い状態で生きる”ことを余儀なくされる人々の存在やその人々の気持ち・状況への理解が十分ではないことにも気づかされることとなった。